

大宮中の学習活動

今年度は、授業時数（標準時数）。昨年度と比べ変更点はありません。

領 域		学 年	第1学年	第2学年	第3学年
各 必 修 教 科	国 語	140	140	105	
	社 会	105	105	140	
	数 学	140	105	140	
	理 科	105	140	140	
	音 楽	45	35	35	
	美 術	45	35	35	
	保 健 体 育	105	105	105	
	技 術 ・ 家 庭	70	70	35	
	外 国 語	140	140	140	
	小 計	895	875	875	
特別の教科 道 德		35	35	35	
総 合 的 な 学 習 の 時 間		50	70	70	
特 別 活 動 (学 級 活 動)		35	35	35	
総 計		1015	1015	1015	

少人数習熟度別による学習指導

全学年の数学・英語の学習指導において、少人数の学習集団を編成し学習を進めて行きます。1クラスを2つの集団または、2クラスを3つの集団に分割し教員が指導にあたり、他教科の授業よりも少ない人数での授業を展開していきます。

集団の編成や学習の進め方については、各教科で設定しています。

評価・評定について

各教科の評価・評定は、年間指導計画の評価基準に基づき、以下に示すような手順で行われています。大きな流れとしては、まず、学習状況を観点別に評価することから始まり、各学期末にその内容を総括して評定を決定します。

【評価の流れ】

- ◇ 生徒の学習状況の何を評価するかを検討する
- ◇ どのような評価をするかを検討する [教育計画の作成]

↓

- ◇ 教科の目標に拠る「評価の観点」及びその趣旨を整理する

↓

- ◇ 各学年・各单元（題材）の「内容のまとめ」ごとの評価規準の設定

↓

- ◇ 観点別学習状況の評価の基準の設定

↓

- ◇ 指導計画・評価計画の作成、評価方法の吟味・決定

↓

- ◇ 観点別学習状況の評価（絶対評価）

↓

- ◇ 評定（絶対評価）

(1) 観点別学習状況の評価

各教科の「学習状況の評価の観点」について、それぞれ評価の基準に基づいて3段階で評価します。

- | | | |
|---|-------------------|---------------|
| A | 十分満足できると判断されるもの | ⇒目標への到達度80%以上 |
| B | おおむね満足できると判断されるもの | ⇒目標への到達度50%以上 |
| C | 努力を要すると判断されるもの | ⇒目標への到達度50%未満 |

具体的には、学習指導要領に示されている各教科の目標に照らして、その実現状況を観点ごとに評価し、A, B, Cの各段階で示します。

(2) 評 定

現在行われている評価(絶対評価)は、各観点ごとの評価を総括して5段階で表記することとなります。そこには、何%といった集団の中における基準がないため、学習(内容のまとめごと)の目標に対する達成度が高ければ、それに伴って高い評価を得ることができます。

- | | | |
|---|------------------------------|------------|
| 5 | 十分満足できると判断されるもののうち、特に高い程度のもの | ⇒ 達成度90%以上 |
| 4 | 十分満足できると判断されるもの | ⇒ 達成度80%以上 |
| 3 | おおむね満足できると判断されるもの | ⇒ 達成度50%以上 |
| 2 | 努力を要すると判断されるもの | ⇒ 達成度50%未満 |
| 1 | 一層努力を要すると判断されるもの | ⇒ 達成度20%未満 |

(3) 3年生の受験の時に用いられる評価・評定

受験の時に用いられる評価・評定は、2学期末に渡される通知表に記載されるのですが、2学期だけのものではなく、4月から12月までを総合した評価・評定です。

(4) 評価から評定への補足

評価が、A A A Aの場合、評定は、4もしくは5になります。

評価が、C C C Cの場合、評定は、2もしくは1になります。

評価が、B B B Bの場合、評定は、3になります。

特別の教科 道徳 の評価

年度末にお渡しする通知表に文章にて記入いたします。

総合的な学習の時間 の評価

学期末にお渡しする通知表に文章にて記入いたします。

大宮中学校の通知表

各学期の終業式・修了式の日に、担任から生徒を通してお渡します。評価評定は、1学期・2学期と年間を通してのものが表示されます。2・3学期の始業式の日に、担任へ返却下さい。今年度より、押印欄をなくしました。保護者の方がご覧になった確認は、「家庭から」の欄に一言お願ひいたします。